西脇
ファッション都市
構想

【概要版】

期間：平成27年度～平成31年度

平成28年7月　西脇市

西脇ファッション都市構想

1　策定の趣旨

播州織は社会情勢の変化により従業員数や生産数量は減少傾向が続いており、本市を取り巻く経済環境も大変厳しい状況にあります。

また、本市においては10歳代後半から20歳代の若者が、進学や就職に伴い都市部等へ大量に流出するという構造的な問題を抱えており、播州織を支える若手人材が産地に不足しているという状況が見受けられます。

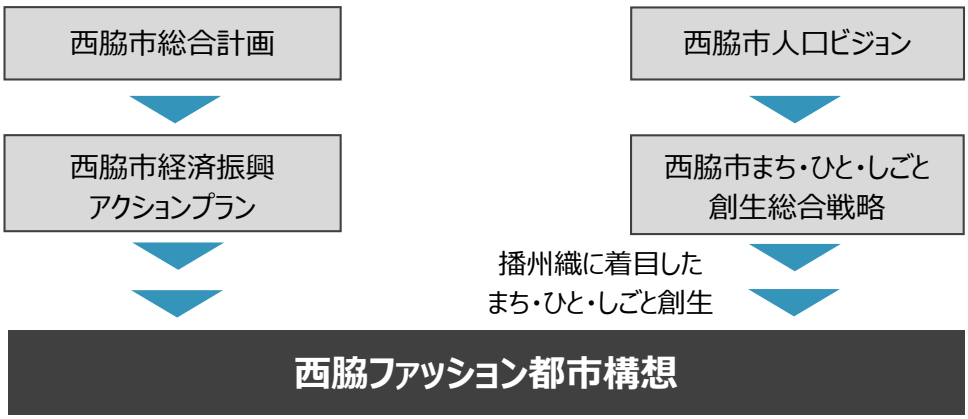
このような状況を踏まえ、これまでの強みである素材生産を中心とした製品づくりを強化することに加えて、市内で一貫して素材生産ができ、素材が豊富にあるという地域の強みをベースに、織物を使った最終製品までデザイン・製造することにより、いわゆる“ファッション”分野の産業を伸ばしていくなど、新しい視点で創意工夫していくことが求められます。

そこで、“播州織に着目した地方創生”として、西脇ファッション都市構想を策定し、播州織が抱える課題に対して、誰が、どのような理念・方針に基づき、どのような事業に取り組んでいくのか、という方向性を体系的に示します。

2　位置付けと期間

位置付け

西脇ファッション都市構想は、西脇市まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げる基本目標のひとつ『地域に根ざす産業の活性化を通じて仕事と雇用を創出します』を踏まえて、播州織に着目した地方創生の方向性を示すものです。



期　間

本構想は、平成27年度から平成31年度までの5年間を期間とします。ただし、期間中における社会情勢の変化などを踏まえ、適宜見直しを行うこととします。また、平成32年度以降については、次期ファッション都市構想の策定をはじめ、国の動向も踏まえて、次期総合戦略や次期総合計画への反映・統合も含めて検討します。

	H27	H28	H29	H30	H31	H32
総合戦略及び 西脇ファッション都市構想	策定・推進					
総合計画			検証・策定		次期計画の推進	
経済振興アクションプラン	計画の推進(H29 は一部)					

3　播州織の課題

播州織は戦後、オイルショックによる不況やプラザ合意による円高の進行、リーマン・ショックの発生、さらには新興国の低価格な海外製品の流入により市場環境が大きく変化した影響を受け、近年、生産数量は大きく落ち込んでいます。

平成14年に1億2,396万㎡あった生産数量は、平成27年には3,946万㎡と3分の1以下に減少しており、生産金額についてもこの間に541億円から237億円と半分以下に減少しています。生産数量のピークである昭和62年と比較すると、平成26年の生産数量は約10分の1（3億8,777万㎡ → 3,946万㎡）に減小しています。また、播州織は国際競争力の低下に伴い、輸出主体から内需主体への転換を図ってきており、平成26年には、生産数量の85.6%が内需向けとなっています。

キーワードを基に、各課題を分類すると次のとおりです。

「ひと」

1．人材の育成
　①技術・事業の継承、②人材の受入れ体制の構築、③人材が西脇に来たくなる仕組みの構築、④人材の募集・育成に関する情報の発信

2．播州織の地域内外への発信
　①消費者だけでなく、デザイナーや織物生産者の卵に向けて播州織を知ってもらうこと、②誰もが学び、体験できること

3．起業の促進
　①担い手・生産量の減少、②起業者の立場に立った支援

「にぎわい」

4．播州織最終製品の製造・販売の促進
　①最終製品の製造を産業として育てること、②播州織最終製品の販売チャンネルの確保

5．高付加価値のテキスタイル製造
　①地域の雇用のための多品種小ロット生産、②人材確保のための取引単価の向上

6．播州織のブランド化の推進
　①播州織商業の柔軟な運用、②播州織の認知度が不十分、③地域内外の播州織以外の事業者との連携強化

7．縫製・織物工場の創出・誘致
　①担い手減少による生産能力の低下、②後継者のいない零細の下請け機屋の対策、③縫製・織物工場の創出・誘致に向けた方策の検討

8．播州織を生かした観光振興
　①体験型観光のニーズに対応、②観光振興の拠点

「わざ」

9．未利用の機械の有効活用
　①廃業に伴い廃棄が見込まれる機械の確保、②低利用の機械を柔軟に活用すること

10．試織コストの軽減
　①色糸・残糸の管理体制の構築、②整経機等の有効活用

11．新製品開発のコスト削減
　①開発におけるコスト削減の工夫

12．協同組合播州織総合準備センターの対応力の強化
　①コスト低減・効率化、②機械の老朽化と労働力の不足、③多様化するニーズへの対応

13．産地の省エネ推進（エネルギーコストの低減）
　①エネルギーコストの低減

14．残糸の利活用によるコスト削減及び高付加価値化
　①繊維廃棄物の有効活用、②バイオ燃料の有効活用の検討

4　西脇ファッション都市構想が目指す方向

課題

【播州織の現状】
- 生産数量・生産額が減少
  （10年間で生産数量は約1/3、生産額は約１/2に減少）
- 国際競争力の低下に伴い、輸出主体から内需主体へ転換

課題【ひと】
1．人材の育成
2．播州織の地域内外への発信
3．起業の促進

播州織の次代を担う「ひと」が不足

課題【にぎわい】
4．播州織最終製品の製造・販売の促進
5．高付加価値のテキスタイル製造
6．播州織のブランド化の推進
7．縫製・織物工場の創出・誘致
8．播州織を生かした観光振興

産地としての「にぎわい」が低下

課題【わざ】
9．未利用の機械の有効活用
10．試織コストの軽減
11．新製品開発のコスト削減
12．協同組合播州織総合準備センターの対応力の強化
13．産地の省エネ推進（エネルギーコストの低減）
14．残糸の利活用によるコスト削減及び高付加価値化

蓄積した「わざ」を生かす視点が不足

基本方針

【基本理念】播州織の維持と創造、そして西脇のブランド化へ
【将 来 像】ファッションを志す若者が「訪れてみたくなる」、「働いてみたくなる」、「住みたくなる」まち

基本方針

ひと

将来を担う人材の成長を最優先しながら、誘致・育成を仕掛ける

① 人材が西脇を目指す「流れ」を作る
② 長期的視点に立った人材育成システムを確立する
③ 将来を担う人材の意欲的な取組を支える

にぎわい

産地が一体となり、ターゲットを絞って基盤づくり･取組を仕掛ける

① 西脇ファッションの「ストーリー」と「今」を発信する拠点をつくる
② 産地発の積極的なチャレンジを支援する

わざ

新しい視点で、あるものを生かしながら産地の課題に立ち向かう

① 資源と技術を生かして課題を解決する

西脇ファッション都市構想 ３本の柱 ～ひと、にぎわい、わざを貫く重点的な取組～

- **産地における人材育成･就労･移住定住の促進 ～西脇へ新しい人の流れを作る～**
- **オンリーワンのテキスタイル開発･製造 ～得意分野をみがく～**
- **オンリーワンの最終製品の創出 ～西脇ブランドの創出～**

事業の方向性

ひと

①人材が西脇を目指す「流れ」を作る
- デザイナー等育成支援
- 播州織実地研修の支援
- 播州織に係るコンペの開催
- 播州織ジョブフェアの開催

②長期的視点に立った人材育成システムを確立する
- 西脇ファッション都市構想の推進体制の確立
- 海外インターンシップ研修、海外販路拡大支援
- 織物技術の継承

③将来を担う人材の意欲的な取組を支える
- 播州織関連の起業・創業支援
- デザイナー等へのアドバイス支援
- デザイナー等の研究・交流の支援

にぎわい

①西脇ファッションの「ストーリー」と「今」を発信する拠点をつくる
- コワーキングスペースの整備
- デザイナー等による作品の発表スペースの検討・整備
- 播州織最終製品等の販売所の検討・整備
- 縫製・織物工場の創出・誘致

②産地発の積極的なチャレンジを支援する
- 国産表示制度認証取得の推進
- ポータルサイトによる最終製品の販路開拓支援
- 展示会出展等の販路の開拓・拡大支援
- 新製品の開発支援

わざ

①資源と技術を生かして課題を解決する
- 多品種小ロット生地のコスト低減に対応するための技術支援
- 産地のエネルギーコスト削減
- 協同組合播州織総合準備センターの支援の検討

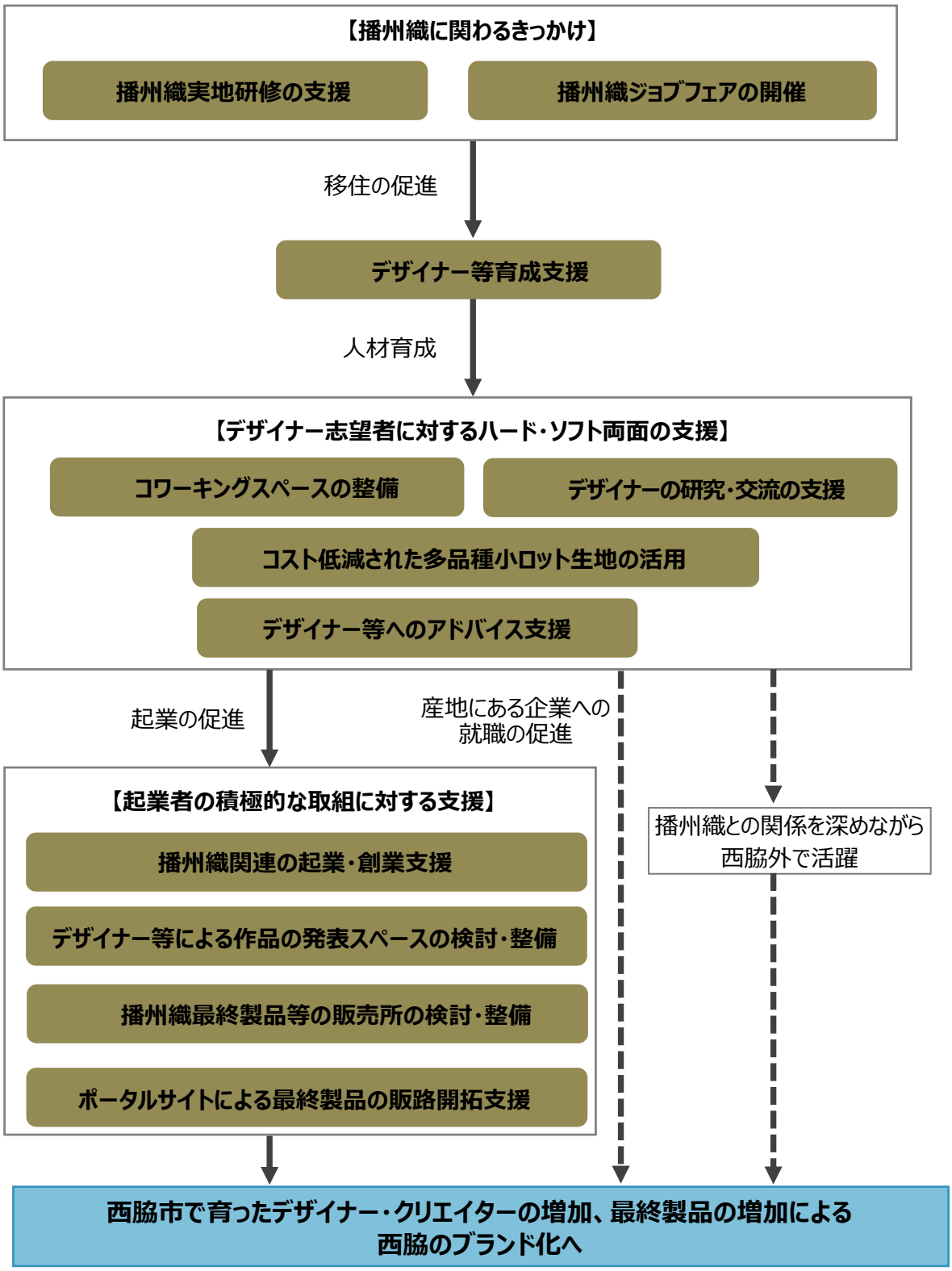
成果指標

成果指標【ひと】
- デザイナー等研修生の受入れ人数
  （０→15 人）
- 播州織実地研修の参加者数
  （０→200 人）
- 若手デザイナー研究会の参加者数
  （０→100 人）

成果指標【にぎわい】
- コワーキングスペースでの最終製品の作製（試作）着数
  （０→５０着）
- 国産表示制度の認証取得件数
  （０→２０件）
- 展示会、商談会等への出展支援件数
  （５→４５件）

成果指標【わざ】
- 繊維くずリサイクル率
  （調査・研究後に設定）
- 実証実験事業所のエネルギー削減率
  （０→10%減）

5　西脇ファッション都市構想における人材育成の体系図



発　　行　西脇市
発行年月日　平成28年７月
〒677-8511　兵庫県西脇市郷瀬町 605番地
電　話 0795-22-3111
ＦＡＸ 0795-22-1014
URL://www.city.nishiwaki.lg.jp